

宮城県環境影響評価技術審査会議事録

1 日時 平成 22 年 8 月 26 日(木) 午前 10 時から 11 時 30 分まで

2 場所 県庁行政庁舎 11 階第二会議室

3 出席委員 7 名

菊地 立	東北学院大学 教養学部 教授
齊藤 千映美	宮城教育大学 環境教育実践研究センター教授
斎藤 洋子	(元)仙台白百合短期大学 教授
根本 智行	石巻専修大学 理工学部 教授
平吹 喜彦	東北学院大学 教養学部 教授
松山 正将	東北工業大学 工学部 教授
由井 正敏	(社)東北地域環境計画研究会 会長

4 会議経過

(1) 開 会 司会(結城副参事) (略)

(2) あいさつ (加茂環境生活部次長) (略)

(3) 審議事項

①新仙台火力発電所リプレース計画について

○事務局説明(佐藤技術主査)(略)

○質疑応答

【菊池会長】

今の説明についての質疑に入る前に、技術審査会の運営規定に基づいて参考人の方に御出席いただいておりますので、必要に応じて参考人に回答していただきたいと思いますのでご了解願います。

事務局から参考人を紹介願います。

【事務局 三沢班長】

それでは参考人をご紹介します。

事業者であります東北電力株式会社、
環境部課長、 千葉秀樹様です。

同じく環境部副長， 門脇忠夫様です。
同じく火力部主任， 田村良範様です。
同じく火力部， 江刺慶様です。
土木建築部副長， 小野雅毅様です。
同じく土木建築部， 和田宙司様です。

【菊地会長】

それでは質疑に入りたいと思います。先ほどの説明に対しまして委員の方から質疑、ご意見等頂きたいと思いますが、よろしくお願ひします。

【平吹委員】

基本的なことを三点お伺ひしたいと思います。一点目は、要約書 P4の概要図に、内港と外港という二つの放水口が表示されていますが、それぞれはどのように機能するのか、使い分けについて説明してください。もう一点は、新しい施設が現在の設備の隣に造成され、一方では大変重要と評価された草地生態系を再現することですが、両者の時間的兼ね合いを教えてください。新施設をつくと同時に現行施設を壊し、草地をつくるのか、新施設が稼働した後に現行施設を解体し、そして草地をつくるのか。それからもう一点、マウンドを造成して自然林をつくるということについてもう少し詳しく説明してください。

【参考人 環境部千葉課長】

1点目の内港と外港の関係ですが、新仙台火力の海域前面でワリの養殖をやっております。地元の漁協さんとの協議により、冬の期間は海苔が成長するというので内港に放水し、夏の期間は外港に切り替えて放水します。

【参考人 環境部門脇副長】

2点目の草地の復元のことですが、工事が終了し、場所が空き次第すみやかに草地を作る予定です。3点目のマウンド緑化については、準備書 P43 に記載してあるように、構内で発生した残土を高さ5mほどに盛土をし、そこに広葉樹やクロマツの混交林を作る予定です

【平吹委員】

構内の工事による残土をマウンド緑化に使用するという事は、厳密に言うと地形改変があると解釈してよいのでしょうか。

【参考人 環境部門脇副長】

地形改変はあります。

【由井委員】

要約書 P55 の概要図に、5.9ha の現状が将来は 6.8ha に増加していますが、工事の過程においてはヒバリが生息する草地は継続的にどこかに残っているということでしょうか。

【参考人 環境部門脇副長】

工事期間中については、ヒバリは外に営巣地を求める形になります。敷地の中は

すべて改変するので、その後速やかに回復するという計画です。

【由井委員】

ヒバリは飛べるので、周辺部に移動できると思うが、周辺近くに回避すべき場所と
いうのはありますか。

【参考人 環境部門協副長】

周辺にも草地は結構ございますので、そちらのほうで営巣可能と考えています。

【由井委員】

ハヤブサのほうは、3号系列の煙突ができるまで1号煙突が残るのでうまく引き継
げるわけですね。ヒバリはいったんどこかに移動ということになりますね。

ハヤブサはヒバリを餌としていた記録はありますか。

【参考人 環境部門協副長】

準備書 P775 に主なハヤブサの餌を記載しております。

【由井委員】

不明がたくさんあり、ここに入っているかもしれないですが、調査した段階では繁
殖経過をみるとヒバリはいずれのつがいもいたと書いてあるので、食べられていない
のかもしれないね。

【参考人 環境部門協副長】

調査したヒバリ3つがいの内、2つがいの営巣が確認され、1つがいではしっかりと
雛の巣立ちも確認されました。

【由井委員】

新たに創出する草地の種類構成は何を基準にして考えているのか。昔そこにあつ
たであろう潜在植生で草地を創出するのか。それとも現状に見られるこの敷地の草
地とするのでしょうか。

【参考人 環境部門協副長】

草地の創出にあたっては、基本的に現状の表土、種子等を用いて緑化をするの
で、基本的に現状の種が復元すると考えています。

【由井委員】

要約書のP69にCO₂の最終的な年間排出量が記載されているが、これによると現
在は合計が235万tから、3号系列ができる段階で212万tになるということで、約1
割程度削減されるが、これで良いのでしょうか。

【参考人 環境部門協副長】

注意書きにあります。1号機の利用率が55%、2号機が45%、3号系列が利用
率70%を想定している。このような差になっています。

実際は利用率を同じにすればもっと二酸化炭素排出量の削減量は大きくなりま
す。

【由井委員】

最終絶対排出量は1割削減ということですね。

【参考人 環境部門協副長】

発電電力量を見ていただくと1, 2号機合計が現状で約 40 億 kWh, それに対して将来が約 60 億 kWh で想定していますので, 仮にそっくり置き換えるとなればもっと削減されることとなります。

【由井委員】

つまり, 発電量が5割増になっても, 二酸化炭素の排出量は1割減少するということでしょうか。

【参考人 環境部門協副長】

その通りです。

【由井委員】

方法書もこのような記載でしたか。

【参考人 環境部門協副長】

方法書では利用率までは記載していませんが, 考え方は変わっていません。

【菊地会長】

発電効率は良くなるが, 発電量が多くなるので, 二酸化炭素の排出量も極端には少なくならないという事だろう。

【斉藤(千)委員】

要約書 P50 の措置には「営巣が確認された場合には・・・」と記載されていますが, 工事中のハヤブサの調査はどのように行うのでしょうか。

【参考人 環境部門協副長】

工事中にも調査を行い, 営巣場所を確認する予定です。また, 事後調査でも運転開始後 2 営巣期は調査を行い, 繁殖状況を確認します。

【菊地会長】

どのような方法で調査するのでしょうか。

【参考人 環境部門協副長】

基本的には目視です。営巣状況を調査する予定です。月1回程度を考えています。

【松山副会長】

要約書の P6 の主要な工事工程なのですが, 工事開始年月はいつになりますか。

【参考人 環境部門協副長】

開始が 2012 年(平成 24 年)1 月です。

【松山副会長】

景観のほうの感想なのですが, 工事の現場に残土をマウンド緑化に有効利用は大変器用な対応であると感心していますが, 他の電力でもこういう事例はたくさんあるのですか。

【参考人 環境部門協副長】

できるだけ残土を外に出さずに中で利用しているという事例は多数あります。

【松山副会長】

新たに栈橋を造ったというのは、パイプラインと2系統にするためにこのようにしたのででしょうか。船積みとパイプラインとでリスクを考えての対応でしょうか。

【参考人 環境部千葉課長】

地震等の自然災害を考えて、新潟地区に LNG 基地があるのですが、太平洋側と日本海側に燃料供給源を設置することでリスク分散することにしました。

【根本委員】

工事用資材の搬入による影響はないということですが、工事の特殊車両の台数は少なくとも、一般車両に比べれば、騒音や窒素酸化物はより多く発生すると考えられますが、その点も数値化して計算を行っているのですか。数値として現れているならどこを見ればいいのでしょうか。

【参考人 環境部門協副長】

運搬車両につきましては、基本的に大型、小型車別に分けて騒音、排出量等の予測をおこなっています。建設機械についても、それぞれ機械ごとに分けて排出量を求め予測を行っています。

【菊地会長】

今回はリプレースということで現状からみれば改善されるという計画になっています。

特になければ以上で質疑応答を終了します。参考人の方々どうもありがとうございました。

(4) 報告事項

①宮城県環境評価マニュアル(人と自然との豊かなふれあい・環境負荷分野)について

○事務局説明(小野主任主査)(略)

○質疑応答

【菊地会長】

継続的に毎年行っているマニュアルの改正ですが、今年度は人と自然との豊かなふれあい、環境負荷分野ということです。

完成は今年度中ということですか。

【事務局 小野主任主査】

予定では年を越しますが1月ぐらいになります。部会の方は12月までに終わらせたいと考えています。

【菊地会長】

何回か開催する予定ですか。

【事務局 小野主任主査】

現在の予定では10月と12月に予定しています。

【菊地会長】

平吹先生には事前にご相談しなかったのですが、事務局の方と相談して、こういう

内容であれば平吹先生にもお願いして専門的な立場からご意見をいただきたいということで私の方から推薦申し上げました。

それでは、この方針で今年度の改訂作業に入りたいと思いますが、ご了解いただけますでしょうか。

【了承の声】

それでは、よろしく申し上げます。

②その他

【菊地会長】

それでは、その他ということで事務局の方から何かございますか。

【事務局 三沢班長】

事務局から連絡事項が3点ございます。

まず1つ目は意見の提出についてでございます。準備書についてのご意見等につきましては、資料として配布しているFAX用紙、又はE-mail等で、9月15日水曜日までに事務局あて送付願います。

2つ目は次回の開催予定でございます。

準備書の説明の中でも触れましたとおり12月中旬を予定しております。

日程については、後日、調整をさせていただきたいと思っております。

3つ目は、マニュアル検討部会の開催についてでございます。

現在、「人と自然との豊かなふれあい・環境負荷分野」のマニュアルの改訂作業を進めているところでございますが、会長からのご指名をいただいた委員の皆様により、検討部会を開催する予定としておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からの連絡は以上です。

【菊地会長】

議事録については我々に配布していただけるのでしょうか。

【事務局 三沢班長】

9月15日の意見提出より前に目を通していただけるように作成したいと思います。

【菊地会長】

以上の説明について何か、他にお話しがあればお願いします。

【松山副会長】

たとえば宮城県で報告しているところがよくわかりませんが、去年と比較した二酸化炭素排出状況のレポートはどこが所管で行っていますか。

【事務局 氏家課長】

環境政策課が現在、地球温暖化対策についての業務を所管しておりまして、県内の二酸化炭素排出量等の状況の取りまとめや報告等をしております。ただ、いろいろな報告をまとめて作成する関係上、国の発表が1年半くらい遅れますので、2年遅れのデータをお出ししています。

【松山副会長】

その中で産業分は把握できるのでしょうか、宮城県の緑の分布や一年間のストック量ということはデータには書いてあるのでしょうか。

【事務局 氏家課長】

二酸化炭素の森林による吸収ということですが、これまでは発生量ということで電力の使用量などで主に計算していましたが、これからはどれだけ森林で吸収できるかということも合わせて計算しなければならないということになっていますので、その方向で進めていくと聞いていますが、現在そのデータが取りまとめられているかどうかはこの場ではお答えしかねます。

【松山副会長】

現状はわかりました。ありがとうございました。

【菊地会長】

他にございませんでしょうか。

本日の審議事項は以上で終了します。ご協力ありがとうございました。

【司会 結城副参事】

本日は長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。これをもちまして環境影響評価審査会を終了致します。